

医学部 看護学科 地域生活看護学講座

研究テーマ：保健・医療・福祉・社会教育および介護予防従事者等の連携による農山村高齢者が求める介護予防プログラムの作成と実践

キーワード：独居高齢者、生活継続、介護予防プログラム、連携

予測される技術成果・効果：

関係機関の連携による健康的な在宅生活継続支援とした生活上のニーズに基づく介護予防プログラムの作成

事業化が期待できる分野：

生活継続を重視した介護予防プログラムおよび高齢者を取り巻く地域ケア関係者の連携支援システム構築

概要

介護予防の視点から住み慣れた地域での生活を継続しつつ、高齢者自身が求めている生活と密着した介護予防プログラムを作成する。農山村地域の独居高齢者の『生活』と『健康』に着目し、『生活の術』を把握し、健康状態およびQOLの維持・向上を目標とする。在宅生活を元気で健康に暮らせるように保健・医療・社会教育および介護予防従事者等の関係者が連携して介護予防支援活動を実践するシステムを図りたいと考えている。



ふりがな

名前 山口 豊子

職名 講師

主な経歴：看護学修士(滋賀医科大学)、社会福祉学修士(龍谷大学)
所属学会：日本ケアマネジメント学会、日本認知症ケア学会、日本介護自立支援学会 等

■ 内容

近年、独居高齢者の増加だけでなく、さらに、様々なアイデンティティをもつ高齢者の増加がみられる。医療をはじめ様々な生活上の困難を抱えている農山村地域の高齢者は住み慣れた地域での生活に愛着をもち、主体的に、自立をめざした生活を営んでいる状況といえる。

- ① 身体的・精神的・社会的な健康状態およびアイデンティティ等より独居高齢者の『生活の術』を聞き取り調査により把握する。例えば、主体的に頑張っていること、困りごとや不安に対する対処方法を表出してもらう。
- ② 上記①の結果をもとに、独居高齢者が抱える困惑、不安とその対処、健康レベル、生活の質（QOL）等よりニーズを把握する。生活上のニーズに関して質的帰納法によりまとめる。
- ③ 独居高齢者が求めている生活と密着した介護予防プログラムを作成、実施および評価を行う。
- ④ 上記③については、対象地域の高齢者を取り巻く地域ケアの関係者（保健・医療・福祉・社会教育・介護予防従事者等）が各々培っていた経験を生かし集大成を試みる。各関係者が協働し、地域特性、住民の特性を考慮した新たな介護予防サポート支援を追求する。

特許・共同研究等の状況	なし
希望する連携形態	問わない
希望提携業種	介護予防関連

Shiga University of Medical Science

お問い合わせ先：滋賀医科大学 産学連携担当

TEL：077-548-2082

FAX：077-548-2086

E-mail：hqsangaku@belle.shiga-med.ac.jp